

小江戸甲府 城下町整備プランに基づく交流施設整備に関する サウンディング型市場調査結果の公表について

甲府市 企画財務部 財産活用課
産業部 観光課
まちづくり部 都市計画課

1 サウンディング調査実施の経緯

甲府市では、甲府城南側エリアの回遊性向上と賑わい創出を図るため、「小江戸甲府城下町整備プラン」を策定し、交流施設・交流広場、散策路等の整備方針やコンセプトを示したところであります。

本サウンディング型市場調査では、現在設計を進める交流施設について、施設の魅力や利便性の向上につながる機能や配置とともに官民連携に向けた施設の運営管理に関する事業参入の可能性を確認するため、民間事業者の皆さまのアイデアや意見を募集するものです。

この度、同調査にご参加いただいた事業者の皆様から提案のあった意見を公表します。なお、事業者の皆様の知的財産保護の観点から、意見の詳細については公表を差し控えます。

2 サウンディング調査の対象施設



3 サウンディング調査実施概要

実施日時	実施期間：令和4年10月25日（火）～10月28日（金）
参加者	4者
次第	1 挨拶・市職員紹介 2 サウンディング （1）施設の利便性や魅力を高める機能や配置について （2）賑わいの創出につながる効率的な施設の運営・管理について （3）本市が整備を予定している駐車場の在り方について （4）その他の意見 （5）市から質問 3 その他
備考	参加事業者には事前に、①一棟案【寄合棟（多目的スペース）と母屋（インフォメーション・休憩スペース等）が一体となったもの】②分棟案【寄合棟と母屋が離れているもの】の2案の図面を配付しています。

4 サウンディング調査でいただいた意見

（1）施設の利便性や魅力を高める機能や配置について

- 一棟案の方が管理・運営しやすいと感じる。また、建築コスト、管理コストも低くなるので良い。
- 本施設でイベントをする際には室外でも室内でも販売できるのが良い。
- 多目的スペースと休憩スペースは一体利用できれば利用の幅が広がる。
- 他の観光地のように、レンタサイクルはデジタル技術を活用した、スマホで貸し借りできると利便性が高い。
- トイレと授乳室の吹き抜け部分を2階として有効活用できないか。例えば、イベントをする際にダンスの着替えをする更衣室が必要である。会議スペースがあっても良い。
- お客さんが来た時に対応できるよう、入口の横に事務所を配置する必要がある。（サービス低下につながる。）
- 休憩スペースは屋外にベンチもあることから、できるだけ外で休んでもらうようにすべき。
- 発表・発信の場を求める市民が多い。県民文化ホールでは広すぎるため、この規模の施設ニーズは高い。施設を作ることで中心部にも人が集まる。
- 魅力を高める機能や配置として、携帯電話で写真を撮るスポット作りが大事である。具体的には携帯電話を置ける台

を設置し、交流施設やお城を撮影できるスポットが良い。

- おしろらんどを訪れる子どもや近隣の子どもが増えていることから、子どもが遊べる噴水があると良い。また、高齢者なども音を楽しめるよう、水・川の流れがあると良い。
- 案内看板はイベントを行うにあたり必要であり、イベント・展示内容を説明する案内版も必要である。また、施設名を入れた看板を建物に設置すべき。
- 植栽を多く植えて欲しい。本エリアは桜がメインだが、桜のシーズン以外にも、もみじなど秋の中木が植えてあると良い。
- 周辺が暗いので、建物のライトアップの他に植栽のライトアップが必要。また、防犯カメラの設置も必要。
- イベントを行う際に、手洗い場として使用する水道栓を植栽の付近に設けることが必要。電気コンセントも合わせて設置して欲しい。また、イベントの際の排水・水・油の捨て場を確保する必要がある。
- 東側道路と交流施設に高低差があるので、雨水排水処理をしっかりとすべき。
- 施設から出るごみ置き場を設置すべき。
- 屋外の壁面になるべくベンチを設置し、高齢者やこどもが腰掛られるようにすべき。
- 園路入り口の緑地は必要なく、来訪者が多い場合は、園路も広場の一部として考えるべき。
- 芝居小屋風の提灯が赤く光って目立つと良い。
- 交流施設の屋根は場合によっては部分的に太陽光パネルも考えられる。
- 東側道路の転落防止柵は漆喰の白壁のようなものが良い。
- 管理のしやすさや、展示等スペースと多目的スペースの一体的活用が可能であることから、一棟案が望ましい。
- 分棟案では、風除室→多目的スペースだが、一棟案はロビーを介することからエントランスの特別感（もぎりやプログラムの配布を考慮すると）を演出可能。
- 魅力を高める機能について、コロナ禍でインバウンド需要は下降だが、今後のインバウンドを見据え(国内観光も含む)フリーWi-Fi、多言語案内のサインージ、タブレットの案内等を使用すべき。
- 物販スペースの機能は、プロポ事業者との調整により他の用途として活用したい→小江戸と言えば川越を観ても、着物の着付けサービスを交流施設内に設置しても良いのでは。
- 授乳室について・・・授乳室は商業施設では女性限定のところが多いが、男性も入れるような形にしてもらえると良い。一方で、母乳育児を実施している女性への配慮もスペースの別に用意があるとなお良い。例えば、物販スペースを男性も入室可能な授乳室(調乳室)などへの機能転換も考えられる。
- ロッカーについて・・・合築の場合、廊下のスペースが 1.8m を考慮し、入り口の前でロッカーの出し入れとなると、自動ドアが開けばなし及び出入りの邪魔になる。分棟の場合のロッカー配置の方が望ましい。
- キッチンカー配置については、外部電源が必要。でなければ自家発電が必要になり、自家発電では、音が大きく賑わいや憩いには向かない。

- 広場に水が噴き出すような施設があると子ども連れのお客様にはとても好評で人が集まる。
- 交流広場も交流施設と一体なった管理運営としていただけると裁量が増え運営の幅も広がりありがたい。マルシェやイベント活用も可能。広場も貸し出し対象とすることで、利用料収入も見込めるとともに、イベント時には出店料の収益も見込まれる。
- 現在の設計ではどちらも修正すべき点があるが、一棟案の方が分棟案と比較して立派に見えるし、管理もしやすいと考える。
- 壁や天井、椅子などの造作を芝居小屋風に近づけるなど、公民館との差別化が一番大事である。
- 公民館との差別化として、料金を割高に設定し発表場所の目標となるようにする。そのためにも造作を綺麗にする。
- 甲府駅北口の甲州夢小路のように、シンボルとなる造作をすると良い。
- 甲府駅南口の観光案内所と連携があると良い。甲府城を挟んで南北で連携する必要がある。
- 一棟案の場合、防音対策をしっかりとした方が良い。
- できるだけ人と接しないよう、デジタルサイネージを設置すべき。デジタルサイネージの内容は、小江戸の歴史や文化をはじめ、館内案内やイベント広告などの情報を発信すべき。
- 外国人観光客も増えてくるので、音声ガイドがあれば良い。
- 多目的スペースなどの施設予約は、電話でなくスマホでできるようにするなど、A Iを使った斬新なアイデアを導入いただきたい。
- 現在の設計の多目的スペースでの課題は、収納と小会議室へのアクセス性。
- 駐輪場の配置の工夫などデッドスペースを活用すべき。
- 体験スペースの活用方法として、着付け教室などを複数回行うのが良い。一度切りではなく、複数回行うことで飽きさせない仕掛けが必要。
- カルチャー教室も小江戸にあったものや、季節の催事ができる事業者を募集すべき。
- 夜間も開放する場合は、ライトアップや防犯カメラが必要。
- トイレは、施設内でも良いが分かりにくいので、別途外部に戸建てで作っても良い。しかし、夜の防犯面も課題である。例えば、シンボルとなる造作の一階にトイレを設置しても良いのではないか。
- レンタサイクルの貸し出しはスマホでできるようにするとか、一か所ではなく北口と半々にするなどすることで利便性が高くなる。
- 暑さ対策として、植栽にミストを設置したり、軒を広めに張り出すのが良い。
- 演劇やイベント利用もあるが、小規模展示会やカルチャースクール、育児相談など、多目的に利用できる施設が望ましい。

- 観光客も利用するが、県内客の利用も想定した方が良い。
- 具体的な利用方法、使われやすい利用方法を探るためにも、余白を残した整備を行い、暫定利用を視野に入れても良いのでは。
- 駐輪場は必要。
- 軒先を長くし、全ての窓を開放するなど、屋外・施設の境界をあいまいにし、一体利用できる空間を。
- 大規模イベントができるよっちゃばれ広場と競合するのではなく、中心市街地エリアに緑を残しつつ、中小規模のイベントを実施できるようなしつらえにしては。
- イベントがしやすいよう給排水設備や電源盤を設置することやキッチンカーが出店することを見据えて車両が通れる部分を一部残しておくことが望ましい。
- 交流施設の一部に遊具を設置するのはどうか。子どもが遊べる遊具を求める声は意外に多い。
- 民間が利用しやすいように交流施設・広場の利用申請については簡素な手続きでわかりやすい料金体系が望ましい。
- 周辺施設との差別化が重要(自習室は県立図書館、発表の場は市民会館がある)。
- 一棟案と分棟案のどちらの案も一長一短。広いスペースを望むなら一棟案だが、分棟案の方が、寄合棟の使い方が広がることから、分棟案の方が望ましいと考える。施設管理（ランニングコスト）の面でも効率的。
- 多目的スペースには、専門的な設備の方が望ましいと考える。簡易な設備では使う人が限定的になる。
- 収容人数は、分棟案だと少し狭い。桜座で最大 200 人収容が可能。100 人だと少し狭い。人気のある方を呼びたい・使われる施設にするのであればもう少し広いスペースがあった方がよい。ジャズレストラン、ホールは市内に他にもあるので、落語、車座、座談会、能など特色のあるものを実施することも大切。
- 中心市街地の人々の声として、「中心市街地には緑が少ない。県民会館跡地広場の緑は残してもらいたい。」との声が多い。周囲は舗装し、中心を芝生としてはどうか。
- 滞在時間が長いことで場所に愛着が湧く。滞在時間を延ばす工夫が必要。

(2) 賑わいの創出につながる効率的な施設の運営・管理について

- 施設整備だけでなく、運営をどのようにしていくが重要である。
- 施設運営者の自主企画は出演料などでお金がかかり採算がとりにくい。多目的スペースの貸出を行い、得た収益で月に 1、2 回、有名な方を呼んだ企画をするのが良い。
- 甲府は地方都市なので、施設用途は絞り込まず、多目的に使用すべき。運営していくと新しいニーズが出てくるので、フレキシブルにできるようにしておくべき。
- 連携中枢都市として、県内他市町村の特産品などを扱うのも良い。甲府市だけではなく、県内全体の観光を発展させるような施設となるべき。
- 施設の管理者は、イベントを数多く実施したことがあり、若者がいる団体が良い。

- 交流広場はスクランブルパークなども含めて、一体的に管理、利用していくべき。
- 交流施設と広場を一体に運営管理できると良い。
- 運営業務と管理業務の一体発注が望ましい。例えば、運営スタッフにより清掃等を行うことで、管理料のコストダウンにつながる。
- 広場・施設の運営管理を一体とすることで、飲食物販施設事業者への窓口一本化や連携によるイベントスタンプラリーやイルミネーションなど可能となる。
- 指定管理者が柔軟に自主事業を行えるようにすべき。
- 民間の投資を促すとともに積極的な自主事業を。
- 駐車場などの管理収入をイベントや空間づくりに投資できる事業者が望ましい。
- 交流施設・広場の利用促進を行うために、地域（住民、自治会、商店街等）と関係を密にできる事業者が望ましい。

(3) 本市が整備を予定している駐車場の在り方について

- 舞鶴城公園に山梨県のバス駐車場があるが、あまり活用されていないので、そちらに観光バスを置けるようにして欲しい。社教センター跡地駐車場は一般車専用にして欲しい。
- 駐車場について、大型バスの駐車スペースがあれば、旅行会社の新しいニーズに対応できる。駐車スペースでなくても、道路上などに乗降場があれば対応はできる。
- 観光バス駐車場の区画は用意いただいた方が良い。周辺に県駐車場はあるが、社会教育センター跡地の方が、アクセスが良い。観光バスの利用がない場合は、一般車が止められる仕様にすれば良い。
- 駐車場の仕様については、市が整備し、運営管理を民間に任せて頂ければありがたい。
- 東京都内においては行政が保有する駐車場を指定管理者として民間企業が運営管理する案件がある。
- 県管理の甲府城の駐車場を市が借り受け、観光バスの駐車場として活用すべき。そのうえで、社教センター跡地を乗用車専用や駐輪場とすべき。
- 観光案内の際に県外の方から大型バスを置く場所を聞かれるので、必要性和ニーズは高いと考える。
- 交流施設やおしろらんど利用者は駐車場無料化といった、近隣施設との親和性を持たせた運営を検討いただきたい。
- 観光バスの発着場は、岡島南側の既存バス停を活用する・もしくは岡島北側に新設し、今後整備するエリア以外にも回遊する工夫が必要。

(4) その他の意見

- 施設名は亀屋座のように歴史が感じられるような名称が良い。
- 植栽には良い土を使用し欲しい。
- 甲府駅北口側と南口側とをつなぐ動線を整備する必要がある。

- 甲府城を中心にした面整備を行う必要があり、甲府城東の道路（橋東線）には、石垣を見学に来る方もいる。
- 江戸の雰囲気と令和のモダンさの融合が良い街づくりにつながる。
- 100人～120人程度の結婚式2次会での会場の問い合わせがあった。

(5) 市からの質問への回答

【サウンディングへの参加理由】

- 甲府城の野面積みの石垣は価値があり、それを含めて甲府城周辺のまちづくりをすることで、大きな失敗はしないと考えている。また、これまで甲府を訪れなかった県外観光客も呼び込むことができる。
- 甲府駅周辺での管理実績物件を増やしていきたいと考えている。今回の物件はお城のそばであり、多目的であり、弊社の実績としても今後の取組を検討していきたい。
- 中心市街地の活性化を図るためには本計画は重要な計画だと認識しており、駅からこのエリアに人を滞留させ、さらに南に流していくことが重要であると考えている。今後、中心市街地の活性化を検討していく上で、このような良い機会があったので、参加させていただいた。

【魅力の向上や賑わいの創出についての取組について】

- 街並みをおしゃれにしなければ、イベントを実施しても客は来ない。イベントをしなくても歩きたくなる街並みづくりが必要である。
- 何も考えず、歩きたくなる、そんな街並みができれば黙っていても人が来る。さらには、そこにイベントができればなお良い。
- 実績については、ハード面のビル管理がメイン。一方で建物管理において、様々な企業とのコネクションあり。展示や商業施設もある。県内では、地方放送局やメディアとのチームを組んで賑やかさも可能。
- 飲食ブースが充実している小田原市の観光交流施設が参考になると考える。FM局が運営に携わっており、ラジオを活用して情報発信をしている。可能であれば、交流施設内にラジオ局を入れても発信できれば面白い。
- 事例としては、南池袋公園が良い事例である。元々人が寄り付かない公園を開放的かつ魅力的な空間にするとともに、収益性も出る公園として整備した。また、過去に農産物直売所の運営を実施した実績有り。その際の実績を基とした、収益を上げるためのノウハウは持っている。

【多目的スペースに必要な機能】

- 最小限必要な音響や照明を設置する必要がある。それ以上の機材は使用者の持ち込みで対応すれば良い。
- 可動式のステージや音響施設に加え、プラスアルファとして吊りもの（バトン設備）や照明施設があると良い。どのような演目をやるか検討事項であるが、照明設備の投入により様々な演出が可能。吊りもの設備は、舞台の演目の幅が広がる。弊社が管理している物件でも、照明設備まではいかないが、吊りもの設備が設置されているものがある。
- (質問)照明を舞台としての装置の一つとして設置する場合、常設 or 仮設どちらが？→大規模なホールであれば常設だが、部屋の面積も100㎡では、立派なものを常設で設置すると使用頻度に対するコストがかかりすぎるため、仮設でも良いと思われる。
- 全国ツアーのアーティストはすべて機材持ち込みとなる。施設常設で助かるのは、市民の方たちである。市民やアマチュアの人たちは常設である程度の設備があると費用負担軽減となり利便性が向上すると考える。プロ仕様とするのであれば、楽屋をどこにしているのがポイント。小会議室が楽屋になるのかなと思う。水場や化粧台も設置することで利便性が向上する。

- 施設入口周辺に職員がいるようにすべき。
- 一棟案の方が建物が立派に見えるが、休憩スペースと多目的スペースを仕切る壁をできる限り音漏れの少ない仕様にするべきである。
- 音響装置などは、必要最小限度とし、機材の持ち込みを可とした方が維持管理を考えると良い。

【トイレは外部にも必要か】

- トイレは施設一体型で良いが、施設営業時間後でも使用出来るようにし、場所が分かるよう案内版を設置すべき。また、トイレは清潔にしておくべき。
- トイレは、セキュリティラインの設定によっては今の位置でも閉館後ご利用いただくことで問題ない。授乳室やイベントスペースは電気錠などで対応。夜間開放する場合は、多目的スペースの不正利用や、廊下部分での寝泊まりが懸念される。不正利用対策を考えると、屋外に分棟した場合の方が安全面では望ましいと考える。
- 営利の部分では、収支が成り立つかが判断ラインとなる。
- 交流施設と交流広場の利用を想定する場合には、屋外トイレの方が良い。しかしながら、エリア全体で考える場合には、トイレの適正数・機能(屋内・屋外)については、県市において調整・棲み分けをした方が良い。

【交流施設を通じてどのようにSDGsに貢献するか】

- 甲府に人が住み続けてもらうことが一番の取り組みであり、そのようなまちづくりを進める。
- 産業面では、県外や県内市町村の商店街などから出品いただき、県内全体が活性化するような仕掛け作りが必要ではないか。行政域を超えた県内の過疎地域を応援していけるような取組も必要。
- 太陽光パネルの設置は困難であるが、風力発電や施設内に外光を取入れる構造としたり、省エネや節水機器の設置などを実施していくことも可能と考えている。
- 交流施設が周辺の観光資源を周遊させる拠点となることで、持続可能な観光としていくことができる。また、歩いて周遊やレンタサイクルの周遊を推奨しているので、観光負荷の軽減の面でもSDGsに繋がるものとする。
- 県産材の利用。小菅村には、木造の交流施設があり、居心地が良い。また、県内の町立小学校も県産材を使った木造であり、全国から多数の視察があった。

【参考となる施設の提案は】

- 参考施設は、小江戸蔵里があり、会議室の貸出等も行っている。利き酒どころなどの運営も行っている。
- 神奈川県箱根、箱根関所旅物語館、関所通りというのがあり、江戸時代の街並みや建物を再現している街並みであり参考になると考える。
- 他には、大規模な施設になるが小田原市のミナカ小田原も江戸風の外観等を再現しており参考になると考える。

【プロの発表を誘致できるか】

- 首都圏において文化センターの指定管理者をしており、自主事業としてコンサートを行っている。他にもグループ企業に芸術文化施設の運営を主業とする企業があるため、連携して誘致の検討はできる。また、県内でのメディアとも付き合いがあるので、地元メディアを通じての企画も可能かと思われる。
- 実際に誘致が出来るか否かについては、収支が成り立つかが判断ラインとなる。

【施設や広場に導入した方が良い機能は】

- 甲府城を借景し、写真映えするようなスポットを用意するだとか、甲府城を見渡せるような展望台が施設としてあると強みになるのではないかな。
- 体験スペースを用意いただいているが、どういったコンテンツを用意するかがポイント。
- 観光案内カウンターは、各拠点をつなぐハブとして魅力的であり、観光客に合わせて相談に乗れる人を配置することなどが必要である。
- 人が集まるのは水場、子どもが水遊びできるような空間に集まることから、県や市が整備するエリアの中に親水性のある空間が必要である。
- 甲府市の施設ではあるものの、違う市町村のものも販売・PR するのもありではないか。新しい使い方になるのではないかな。

【多目的スペースの需要をどう考えるか】

- 需要については、調査しきれていないが、甲府城の目の前という立地や利用料やキャパシティで需要が左右される。100 名程度の多目的スペースは、基本的には市民やアマチュア団体の利用となる。プロの場合では、この客席で、どの程度稼げるのかがポイントとなる。100 席程度で高額なチケットは販売できなく、誘致した側の費用負担も想定される。

【多目的スペースを外部と一体的に利用することについては】

- 施設と広場の接続は施設の拡張性があり、良い設計となっている。屋内屋外双方に発表できる場所は良い。周辺建物との調整が必要となるが、広場に向けて発表できる仕様は良い。

【施設や広場を活用して賑わいを創出するための考えは】

- 多目的スペースの使い勝手が、市民団体のニーズをどれだけ捉えていけるかが賑わい創出には重要である。また、広場でのイベントの種類に幅を持たせられる運用が良いと考えている。
- 施設単体だけでなく、エリア全体(園路及び散策路)として、賑わいを創出していくことが重要。江戸風街並みの再現は、一定程度の集客は見込まれる。施設単体ではなく、城下町として連携していくことがポイントとなる。

【運営管理に関しての参加資格について】

- 参加資格については、市内に本社を持つ企業や支店営業所を持つ企業の制限は撤廃してもらいたい。費用負担の面では、利用料金制の導入が考えられるが、多目的スペースの稼働想定を綿密にやっていただき指定管理料の上限を設定いただきたい。利用料金ありきで、指定管理料を設定されると、コロナのような有事の際には大赤字になると思われ、補填を頂くこととなる。新築の施設であることから、水道光熱費のベンチマークがないため、入念にシミュレーションいただき上限金額を設定いただきたい。

【設計図面から施設の使い方課題は】

- 多目的スペースの椅子などは造作にあったものにすべき。

- 落語などを行うには、舞台はある程度良いものが必要。
- 飲食物販施設のイベントで活用してもらうことで連携ができると考える。
- 周辺道路が市道なので、道路も活用することで、スペースを広く使え人が集まるのではないか。
- 実際の広場は図面で見ると狭くなるので、子どもも楽しめるようなイベントを実施するのが良い。
- 周辺の印伝博物館や金融博物館等を紹介するなど交流施設に人を滞留させる仕掛けが必要。
- 休憩スペースでのフリーマーケットはそぐわない。休憩スペースの活用方法で施設の価値が高まる。
- 市の制約もあると思うが、ある程度運営者に裁量を持たせてほしい。
- 分棟案において、デッキの位置を堀側の方が望ましい、かつ軒先を伸ばし、雨風を防げるようなスペースとすると、屋内スペースだけでなく広いイベントスペースが確保できる。交流広場については、芝生のエリアをもう少し残した方が良い。大規模イベントを想定するのであれば舗装されていた方が良いが、それはよっちゃばれ広場で可能。ここは、あえて大規模ではなく、中小規模のイベントを想定し、芝生を配置した方が良い。ただし、全面芝生だと車両の乗り入れは難しくなるので、一部を芝生化してはどうかと考える。（佐賀県江北町みんなの広場）
- 観光バスがどこに来て、どこで降ろすかによって動線が変わる。展示コーナーは場所が多少動線から離れていたとしても、有料であったとしても行くだらう。一番人が通ると想定される動線に人を一番集めたい機能を配置するのが望ましい。

【賑わいの創出に向けての課題は】

- 空き店舗解消については、エリアに人が集まるようになれば自然に解消する。公募条件としては、観光客はもちろん、地域住民やワーカー、おしろらんど利用者などが多いので、地域との関係を密に出来る事業者・地域を大事にする事業者がより町を良くしてくれるのではないだろうか。10月に子どもマルシェが開催され、その際に、市でも子ども応援フェスタを開催した。イベント間の連携による相乗効果が見られた。したがって、自分だけが儲かれば良いという事業者ではなく、周囲との相乗効果といった視点を持った事業者が入ってくると良い。

【多目的スペースが活用されるためにはどうすべきか】

- 使う側がどういった使い方をするか非常に重要である。公民館は地域の寄合。定期的なイベントを実施するなど、さまざまな使い方ができるということを見せてあげることが重要である。そうすることで公民館とは違う特徴ある施設になるのではないか。

【管理運営の課題は】

- ランニングコストも含め、どの程度収益があるのかといった視点が重要となる。一般的には、年間収益が想定の中程度であっても施設の利益が見込めるのであれば、チャレンジした方が良いと言われている。したがって、県内の芸術文化ニーズを実際の施設の使用率から推定することが重要である。供用したのは良いが、実際の収益が上がらなければ、事業者の負担になるため、会社としては成り立たない。

【集客イベントとして何か良いアイデアはないか】

- 市内だけでなく、県内の特産を集めたマルシェを実施する。
- 身延山の宿坊へ泊る等、非日常を味わいたいというニーズが高い。稲荷櫓へ泊る、稲荷櫓で天体観測、芝生広場で

キャンプなどが話題になるのではないか。

- 夜市などイベントの時間設定で必然的に宿泊するようなシチュエーションを作り出すことも可能ではないか。

5 今後について

今後は今回のサウンディング調査でいただいたご意見を参考に、交流施設・交流広場の機能・配置等を検討し、甲府城南側エリアが、甲府城と市内の各拠点をつなぐ新たな歴史文化のランドマークとして、回遊性の向上と賑わいの創出を図る施設となるよう着実な整備を進めてまいります。

以上